

経営比較分析表（令和5年度決算）

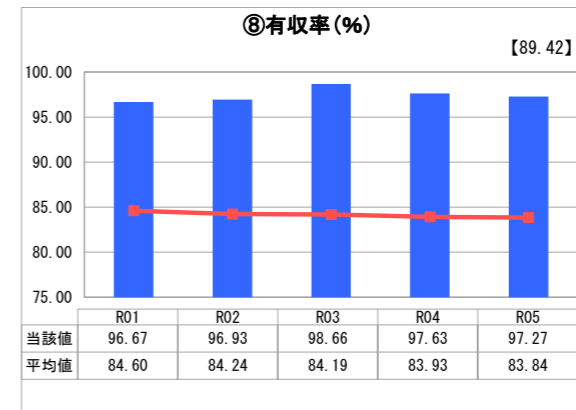
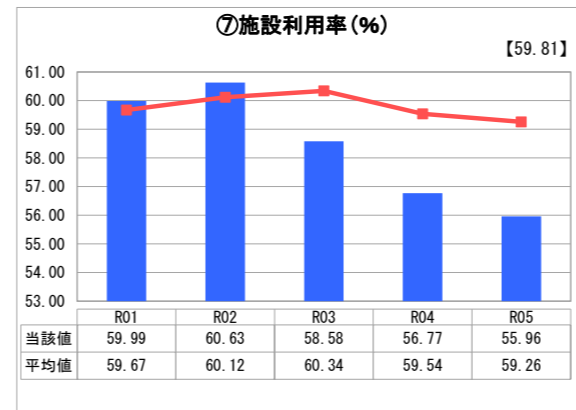
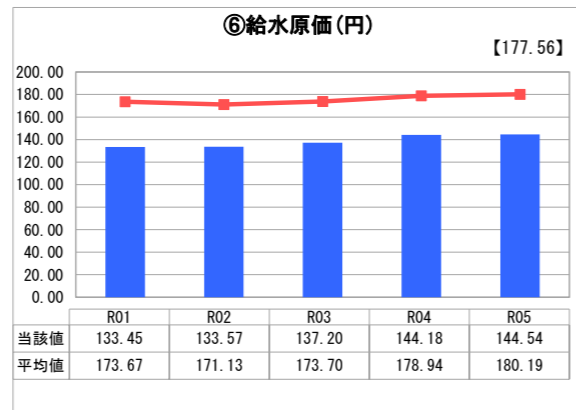
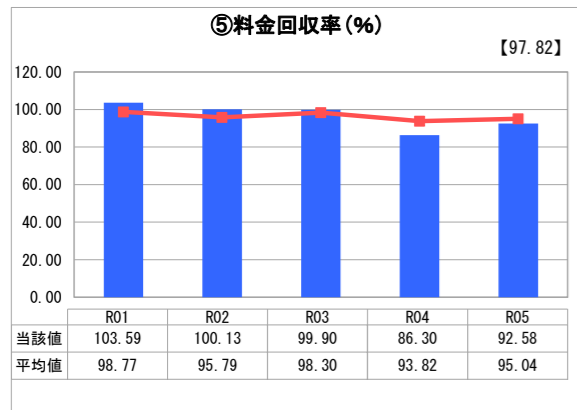
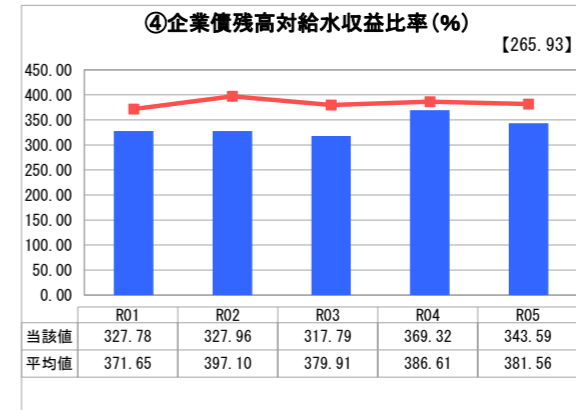
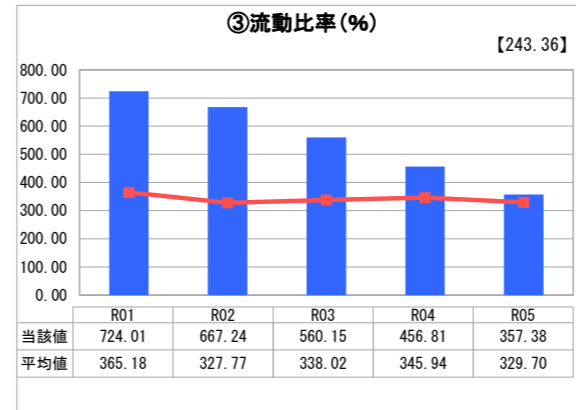
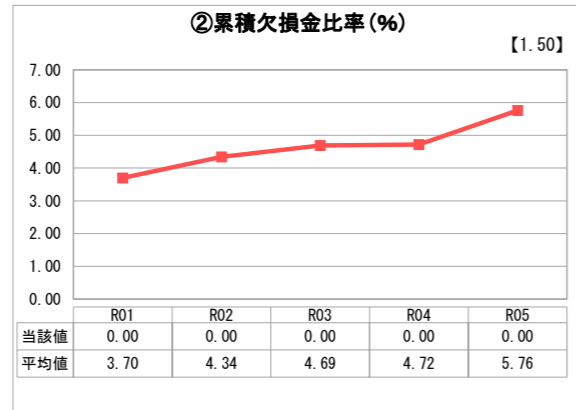
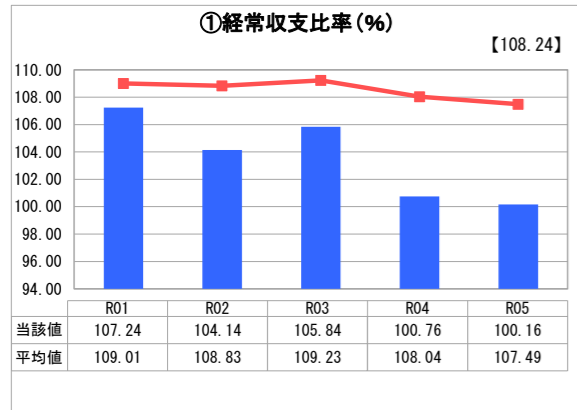
埼玉県 三芳町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.02	99.61	2,172	

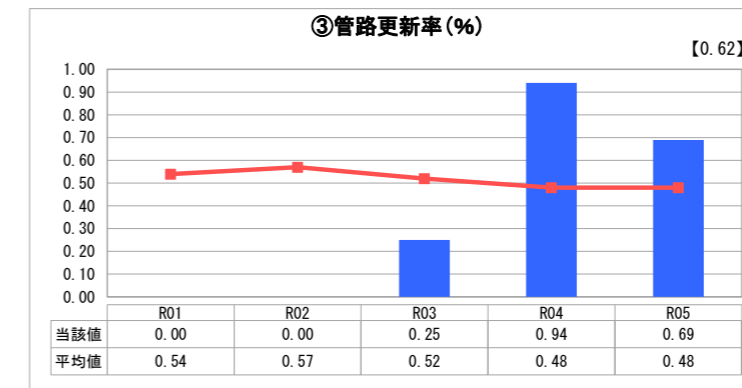
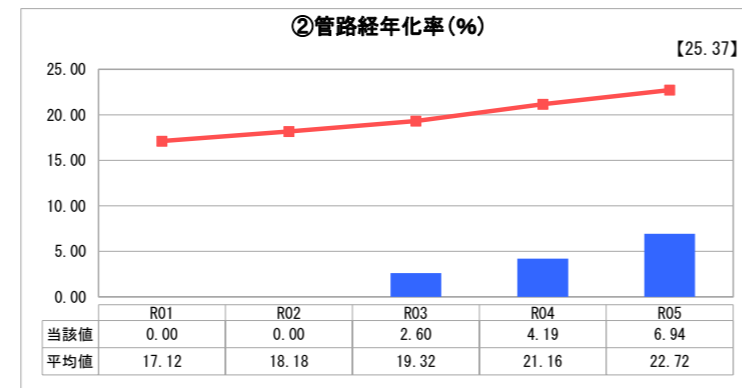
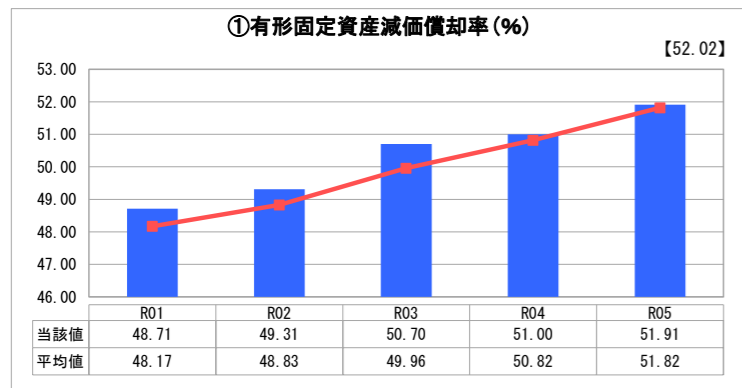
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,453	15.33	2,443.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
37,223	15.30	2,432.88

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、令和元年度～令和5年度において類似団体平均値を下回っている。しかしながら経常収支比率は100%を上回っており、健全な経営状況といえる。
 ② 累積欠損金比率は0%で累積欠損金は発生しておらず、健全経営を維持している。
 ③ 流動比率は類似団体の平均値以上有していることから短期債務に対し十分な支払能力は確保されている。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は前年度より低下しているが、経年的にはやや上昇傾向で、今後も施設の更新は継続されるため企業債による施設整備の資金の確保が必要となる。
 ⑤ 料金回収率は令和3年度以降100%を下回っている。給水収益以外から、給水に係る費用が賄われていることを示している。この要因は給水収益の減少と給水に係る費用の増加によるものである。
 ⑥ 給水原価は類似団体の平均値を下回っており、概ね効率的な経営ができており、しかしながら、物価上昇の影響から維持管理費が増加するため、年々、この値は上昇傾向にある。
 ⑦ 施設利用率は、令和3年度以降は配水量の減少に伴い類似団体の平均値を下回り減少傾向にあるため、水道施設の規模適正化を考え、ダウンサイジングも検討する必要がある。
 ⑧ 有収率は令和5年度は97.27%あり、全国平均値を7.85ポイント上回っており、施設の稼働状況が収益に反映され、高水準にあるといえる。今後も引き続き、漏水調査等を実施し有収率の向上に努めていく。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率はR1年度から3.2%上昇しR5年度には51.91%となっている。償却対象資産のうち法定耐用年数をむかえる資産は年々増加しており、類似団体との比較でも、ほぼ同様の数値を示している。
 ② 管路経年化率はR5現在での数値は類似団体の平均を下回っており、老朽化の度合いは低いといえる。しかしながら今後は増加が見込まれる。
 ③ 管路更新率について、今年度の更新率は前年度より減少している。今後、法定耐用年数を超える管路が増加することから、更新ペースをあげるとともに事業費の平準化を図り計画的に更新を進めていく。

全体総括

経営の健全性・効率性及び老朽化の状況についての指標は類似団体と比較しても、概ね良好な状態にある。しかし、今後は法定耐用年数を経過する管路が増加することや、社会的な節水意識の高まり、人口減少による影響から、水需要が減少しており、今後も給水収益は減少することが見込まれる。また、材料費等の物価高騰を受け、工事費や維持管理費等の経費については増加が見込まれる。そのため、引き続き維持管理コストや建設コストの縮減につとめるとともに、更新等の財源の確保の観点からも適正な料金収入のあり方を検討し、健全で持続的な経営の維持に努めていく。